

29 愛防第 43 号
平成 29 年 9 月 4 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報について（送付）

病虫害発生予察注意報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 29 年度 病虫害発生予察注意報（第 3 号）

平成 29 年 9 月 4 日
愛 媛 県

病虫害名 果樹カメムシ類
（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物 かんきつ、かき等

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- (1) 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数は、8 月中旬から下旬にかけて平年を大きく上回っている（図 1）。
- (2) 8 月のヒノキ球果での寄生数は平年よりも多いが、球果 1 果当りの口針鞘数は 2.0 個と平年よりも少なく、ヒノキからの離脱の目安となる 25 個を下回っている（表 1）。しかしながら、餌となるヒノキの球果結実量は、平年を上回り、豊富にあることから次世代の成虫も含め、今後も本虫密度は高まっていくものとみている。
- (3) 四国地方の 1 か月予報（8 月 24 日発表）では、平均気温は高く、降水量は平年並であることから、本虫の発生や活動には助長적であり、今後、果樹園への飛来が活発化するものと予想される。

4 防除上の注意

- (1) カメムシ類の飛来時期・量は地域、園地により異なるため、早期発見に努める。台風の通過に伴う強風によって、多飛来する事例が多いため、注意する。
- (2) 園地への飛来は、曇天で夜温が高い日に多くなり、特に山林に近い園地で飛来が早く、被害も多くなる傾向にある。
- (3) 同種の成虫をおびき寄せる習性があるため、飛来初期の防除を徹底する。
- (4) 飛来は日没 30 分～3 時間後に多くなるので、薬剤散布は夕方が効果的である。
- (5) 薬剤は登録内容を遵守して使用する（表 2）。特に、農薬使用基準（収穫前日数、使用回数等）に注意し、周辺作物への飛散防止、周辺環境（魚・蚕・ミツバチなど）への配慮を徹底する。
- (6) 園地への飛来が続く場合は継続的な防除が必要となる。但し、ハダニ類やカイガラムシ類の発生については、薬剤の影響によりリサージェンスが起り、助長される可能性があるため、十分注意する。

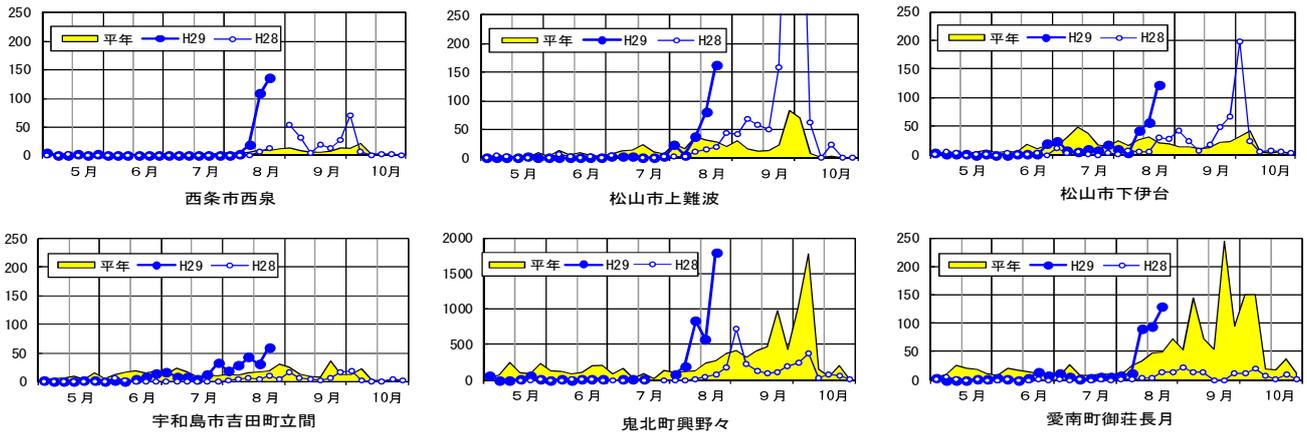


図1 予察灯における果樹カメムシ類の半月あたりの誘殺数（頭）
 調査カメムシ種：チャバネアオ、ツヤアオ、クサギ。
 平年は平成19～28年。

表1 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の寄生虫数と口針鞘数（8月調査）

調査項目	平成29年	平年値	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年
チャバネアオカメムシ虫数	1.7	1.1	0.3	0.3	2.6	2.0	0.8	0.6	0.9
球果1果当たり平均口針鞘数	2.0	9.7	2.7	9.0	12.6	3.8	16.0	4.8	18.9
ヒノキ球果結実量	4.9	3.3	2.3	1.6	4.4	4.3	3.3	4.7	2.8

県下12地点を調査。チャバネアオカメムシ虫数は、捕虫網による10回すくい取り（ビーティング法）した虫数。ヒノキ球果結実量は達観調査（極少：1、少：2、やや少：3、中：4、やや多：5、多：6、極多：7）による平均。

表2 果樹カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	注1) IRAC コード	薬剤名	濃度	毒性		使用時期	使用 回数	防除効果注3)	
				人毒	注2) 水産			注4) 接触効果	注5) 残効性
かんきつ	4A	アドマイヤーフロアブル	2,000	劇物	○	収穫14日前まで	3回以内	B	A
		ダントツ水溶剤	4,000	普通	○	収穫前日まで	3回以内	B	A
		アクタラ顆粒水溶剤	2,000	普通	○	収穫14日前まで	3回以内	B	A
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	○	収穫前日まで	3回以内	B	A
		モスピラン顆粒水溶剤	2,000	劇物	○	収穫14日前まで	3回以内	B	A
		モスピランSL液剤	2,000	劇物	○	収穫14日前まで	3回以内	B	A
	3A	MR. ジョーカー水和剤	2,000	普通	△	収穫14日前まで	2回以内	A	A
かき	4A	ロディー乳剤	2,000	劇物	×	収穫7日前まで	4回以内	A	B
		テルスター水和剤	2,000	普通	△※	収穫前日まで	3回以内	A	A
		テルスターフロアブル	3,000	劇物	×	収穫前日まで	3回以内	A	A
		アドマイヤー水和剤	1,000	劇物	○	収穫7日前まで	3回以内	B	A
		スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000	普通	○	収穫前日まで	3回以内	B	A
		アクタラ顆粒水溶剤	2,000	普通	○	収穫3日前まで	3回以内	B	A
	3A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000	劇物	○	収穫前日まで	3回以内	B	A
		ダントツ水溶剤	4,000	普通	○	収穫7日前まで	3回以内	B	A
		MR. ジョーカー水和剤	2,000	普通	△	収穫14日前まで	2回以内	A	A
		アグロスリン水和剤	2,000	劇物	×	収穫前日まで	3回以内	A	B
2B	テルスター水和剤	1,000	普通	△※	収穫14日前まで	2回以内	A	A	
	テルスターフロアブル	3,000	劇物	×	収穫3日前まで	2回以内	A	A	
	ロディー水和剤	1,500	劇物	×	収穫7日前まで	3回以内	A	B	
	キラップフロアブル	2,000	普通	○	収穫7日前まで	2回以内	A	A	

注1) IRACコード 4A：ネオニコチノイド系、3A：合成ピレスロイド系、2B：フェニルピラゾール系

注2) 水産植物への影響を示す。表記符号は、愛媛県農作物病害虫等防除指針（8ページ）を参照。

注3) 「接触効果」「残効性」のデータは、主に「果樹カメムシ おもしろ生態とかしこい防ぎ方」（堤，2003）等を参考にした。

注4) A：散布1日後の死亡率がほぼ100%、B：散布1日後に生虫がある。

注5) A：5日以上、B：3日以上。

* 農薬を使用する場合には、最新の登録内容を確認してください。